三重中央医療センター　手術室で働く看護師の紹介！

看護師や看護学生のみなさんにとって、手術室って特殊な場所というイメージもあって、自分ではできるかな～とか、看護のやりがいの実感が得られるのかな～と感じている方も多いのではないかと思います。

しかし、三重中央医療センターは、津市内の救急搬送数No.1の地域に必要とされる急性期病院として手術室の機能は中枢とも言えます。

今回、皆さんにリアルな手術室看護師の声をお届けしたいと思います。興味を持った方は是非に、気軽に見学に来てください。

三重中央医療センターの

マスコットキャラクターたち

入職２年目の看護のリアルな声

「オペ室でのやりがいをどう感じていますか？」

オペ室は侵襲的治療（身体に負担を与える治療法）なので、自分の関わる患者様はいろいろなリスクを抱えて手術に来ます。事前の医師のリスク説明の中で合併症とか様々なリスクを聞かされて手術室に来る患者様が、そういったリスクが発生することがなく、滞りなく手術が終わってちゃんと目が覚めて、ちゃんと起きて病棟に戻っていって、そして病棟に戻ってからも大きな変化なく、無事に退院できたら、自分が良く関われて退院できたんだなって良かったなってほっとしています！

患者様は麻酔で眠っていると感覚も自覚もない状態。でも、そういう意識のない状態で、ひも一本でも腕にずっとくっついていたりすると跡になります。痛くないように身体を調整したり、意識のない中でオペ室看護師は、痛みが和らいでいる状態でオペができるよう病棟に戻れるよう看護を行っています。病棟看護に繋がっているんです。それが退院で感じると嬉しいんです。

「それでもやっぱり大変なことも多いんでしょう？」

三重中央医療センターは、診療科が多いので、いろんな手術とそれに合わせた身体の解剖も、医師のクセや術式など頭にいれて覚えることが多いんです。ひとつの手術をとっても、その通りに手術が進むことのほうが少ないので、その場その場での臨機応変さが必要となりますね。医師がこうする！と決めたらそれについていかなければならない。時間的余裕がなく、手術の緊迫している状況下で、迅速な切り替えや対応を求められています。ストレスも正直かかりやすいですね。

「なぜ、新卒で手術室に配属になったのですか？」

高校生のときから気になっていたので希望です。親族が手術を経験し、自分にとって一番近いところがオペ室だと感じていた。看護学校に進学してから、オペ室含めいろんな病棟を経験したが、自分に向いていると思ったんです。性格もそうですが、小学生のときからスポーツ（バドミントン）をしていて、我慢強さや根気強いところ、そして負けず嫌いなところが向いているかも・・と思ったかもしれません。

「手術室は、患者さんと関われる時間が少ないような気がして・・・」

手術前日の術前訪問、手術当日の麻酔で眠るまでの時間にしっかり関わりたいと思っています。麻酔で眠られるまでの時間に、緊張して顔が固くなっている患者様が、昨日お話しした〇〇ですって自己紹介すると、ちょっと和らいでくれる瞬間とか、自分も嬉しくなります。一番緊張するタイミングで、「眠るまで手を握ってますね。」というやりとりの中で、患者さんの手に触れると、言葉にないコミュニケーションや、思いを汲んであげられているという実感もあります。

術前訪問では、なかなか訴えにくい恐怖心を打ち明けてくれたりするとき、うまく関われたなと思いますし、患者さんのために、頑張らなくちゃと勇気づけられます。関われる時間が限られているからこそ、触れ合える時間を大事にしています。

「看護師の友人に手術室看護を勧めるとした、何かありますか？」

待機の勤務はありますが、基本的にはカレンダー通りで決まったお休みがあるので、予定を立てやすい。全診療科と関わることもできるし、自分にしっくりくる診療科、身体の臓器、障害部位などを感じられるので、長い看護師人生にも役立ちます。今、個人的に好きな時間は消化器外科と婦人科、心臓外科の手術かな。すべきことは多いのですが、先生が手術している場面で、今何が実践されているかが理解しやすいんです。

手術を理解し、次の展開を先読みして準備できたとき、術野の情報を正しく外回りに伝えることができたとき、きれいな器械台で器械を管理できたとき、患者さんの安全をしっかり守れたなあと感じたときにやりがいあります！　一緒に働ける仲間を増えたらいいなあ。

手術室の看護師長の声も聞いてみました。

手術室は、超緊急手術や急変、大量出血が予測される手術とか、さまざまな症例が舞い込んでくることもあって、やはり緊張感の高い職場です。だからこそ、職員間の対話を増やすようにしています。技術能力が問われる場所であることから、求められることも多く、そしてその求められることに到達できないもどかしさや無力感を感じやすい。

今、この時期は、どんなことを身に着けなくちゃいけないのかをハッキリわかりやすいように提示共有し、どの場所にいるのかの進捗度合を感じやすいようにしています。お互いに理解しやすいように共有も行い、相手が何に困っているのか、どうしたいのか、話をしやすいようにしています。先輩も後輩も、どうやって進めて行こうか、と対話しやすくなったし、声を掛け合いやすくなったことを実感しています。

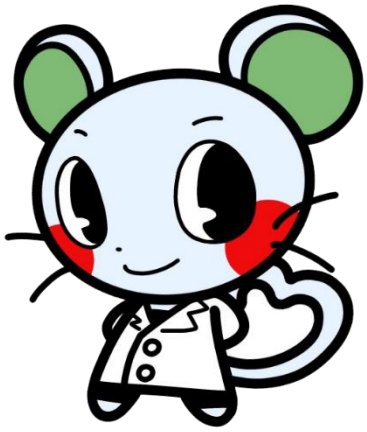
医師も新しい手術をどんどん勉強していくので、ついていくため常に勉強しないといけないのが大変だろうと思います。でも医師と一緒に、やはり特別なスキルで、患者さんの命や生活をつなぐお手伝いができていると思うと、そういう医療チームの一体感はすごく大きいです。

看護部長からも一言あります。

三重中央医療センターの外科系の医師や、麻酔科の医師からは、手術をして患者さんを救いたいという強くて熱い思いをすごく感じます。その分、手術室看護師のこと大事にしてくれています。昔は怖かった先生もいらしたそうですが・・今は本当にお優しいです（笑）。手術室の看護師に辞められては、医者は自分たちが困ります。だって患者さんが救えませんし、手術ができてこその外科医ですから、パートナー看護師の存在は何より必要でしょう。

それくらい特別なスキルを要し、独特な環境で働く看護師の職場ですが、いつでも、当院の手術室の見学に来てください。新卒者も、未経験者も大歓迎です！

（私も看護師人生をやり直せるとしたら・・手術室看護を実践してみたかったです。自分の選んだ看護師としての「強み」には間違いなくなるだろうなあ。）



連絡先　e-mail

317-kango@mail.hosp.go.jp